

テ化の
木小
学
校
四年一組
新井
啓市

家に「ぶたにく」という本がありました。

生まれたこの子ぶた達は、小さくて、走り

20字×20行 (400字)

いおどろきました。そして、ぶた達はそれを
 食べて育っていることはも、とおどろきまし
 た。人間のゴミを食べてぶた達は役に立って
 います。そしてぶたは、生まれてたった十か
 月で人間のためいころされてしまいます。十
 か月とはとても短くて本当にかわいそうだと思
 いました。ぶたをころして肉いしてばく達が
 食べて、ばく達が残した物をまたぶた達が食
 べて、何とも言えない気持ちになりました。

この本では、ぶた肉の工場の様子も書かれ
 ています。たくさんぶたがかし体されてつ
 るさわれています。そしてだんだんと切られて
 小さなお肉いなるて、お店にあるぶた肉ヤン
 ーセージいなるていきます。

スーパーでぶた肉を見たことがあすけど、
 ぶたいもお母さんや兄弟がいて、命があすこ
 とをばくは考えたことがありませんでした。

ご飯を食べる前いっただきますしとまうの
 はご飯を作ってくれた人いだけいやなくて、
 食べ物いなる動物や植物の命をっただきま

す」ということだと、お父さんから聞いたこと
とかあります。この本を読んでその意味がよ
くわかりました。ぶたは人間の残したゴミを
食べて、お肉になって人間の役に立つ。そして
肉と思っでいた、仕事をしてくれるのがあず
かしりしよる害のある人たちの仕事をくっ
て役に立っていらるとお父さんから聞いて、ぶ
たは本当し人間の役に立つ。そしてすごいなと思
いました。

「今、生まれたぶた。そして今、ころすか

たぶた。毎日そのくり返しを知らずに、ぼく
らはぶたを食べている」という文章が書して
あります。ぼくはご飯を食べたいと生きてい
けます。そしてぼくは足りない栄養がぶ
た肉にはあります。だからぼくは生きるだけ
ぶた肉を食べ、で生きるだけご飯を残さない
よ。いいじゃないと思います。そして食べ物な
る動物や植物、つありかとしの気持をもも
って毎日「ただいまです」と言っで、ご飯を食
べたいと思います。